

9月24日 秋山山行

藤村 敏幸

山名	秋山山行	山行名	例会
ルート	新穂高温泉→西穂山荘→西穂高岳独標（往復）		
山行日	令和2年9月24日	天候	曇り
参加者	CL 藤村 SL 平尾 会計 北條 若林 広瀬 永井 吉澤 西川 木元 木田 和田		
RW西穂高口駅 → 西穂山荘 → 丸山 →独標（往復）	コースタイム		
	地名	時：分	西穂高独標着 13:20
	RW 西穂高口駅発	9:40	西穂山荘着 14:40
	西穂山荘着	11:08	RW 西穂高口駅着 15:45
<p>本年度はコロナ禍の為、多くの山行が中止され、当会の活動も下火になる中、夏山登山を延期し、コロナと台風対策をして企画しました。当初の夏山計画（唐松から五竜岳）より倍ほどの申し込みがあり、BH手配と行程に気を配る。実施1週間前の予報では、曇り又は一時雨で台風は発生しておらず安心していましたが、21日に急に熱帯性低気圧が台風となる。その進路は近畿及び長野県を直撃する軌跡で、なんと運がないことかと嘆く。しかしその後の予報では徐々に東に進路を変え始めたので胸をなでおろす。台風飛来なので中止の検討が必要とのメールをいただく。今回は事前に台風で山行が駄目なときは、高山観光もある旨通知しており、直撃でないかぎりBHのCXL料金が発生することもありCXLは考えていなかった。</p> <p>24日はホテル出発時点ですでに10分ほど遅れ、更に国道158号線がたぶん梅雨の大雨により何か所も山崩れ、陥没したことにより、片側通行となり時間を要し45分遅れで新穂高RW前駐車場に到着する。全員を急かし何とか30分遅れでRWに乗車する。この遅れを取り戻すべく登りのペースを少し早め、そして休憩する間隔も何時もより長めにした。道はそれほど急登ではないが岩がゴロゴロとした悪路で、後列から歩行スピードが早いので緩めるよう2回ほど注意を受ける。</p> <p>参加者の皆さんに少し苦しい歩行を強いることになる。西穂山荘には予定より2分早く到着する。この区間の予定歩行時間は110分であるが、90分（コースタイム通り）で登ことになる。コロナ禍の影響もあり、登山者は少なく西穂山荘前のテラスは貸し切り状態でゆっくりと昼食ができた。新穂高温泉から見上げれば尾根筋にガス雲があり小屋では眺望は全く期待できないと想像していたが、意外や山荘からは、周辺の穂高連峰、笠ヶ岳、上高地等がよく見え皆さんが写真を取り喜んでいた。ガス雲が濃い状態であれば、独標には登らず丸山当たりで引き返す予定と考えていたが、昼食している間にも西穂高岳周辺のガス雲が段々と上昇し、見る見るうちに西穂高の岩稜が鮮明に見え始め、午後も天候が崩れないと確信する。独標直下は岩が堆積した斜面で勾配は40度ほどありそんな危険な岩稜で、本来ならもっと長い鎖やボルトで安全対策をするべき場所である。この岩稜を初心者でも登攀可能と案内していることには疑問がある。なんとか全員登り嬉しそうにしていたが、下山するとき誰かがバランスを崩し転落するかもしれないと一瞬頭をよぎり、登攀で苦労した人については後姿勢での降下することを勧め、私自身も後姿勢で降りる。</p> <p>西穂山荘からRW西穂高口駅までは、魔の時間帯の悪路下山なので、怪我をしないよう又膝を傷めないよう休憩回数を増やした。駅が近くなると皆さん安心され、談笑する声がかきこえ楽しそうであった。予定より15分早くRW西穂高口駅に到着する。参加された皆さん全体として早いペースでしたが、我慢して歩行していただき有難うございました。 ヒヤリハット なし</p>			





初めてのアルプス（独標 2701m！）山行なのに、数日前に突然発生した台風 12 号の進路に当たり、中止の二文字が浮かんだ。が日増しに進路は南東にシフト。中止は無いと思うと若干の緊張が芽生えて、初日を迎えた。登山当日は台風の影響少なく、青空が見られる時間帯も多くあり、天気恵まれた登山であった。同行の“晴れ女さん”“晴れ男さん”に感謝です。

新穂高RWは、荷物重量 6kg オーバーで 600 円の荷物代が必要との案内。重量計に乗せると 6.2kg の計測だったがクリアできた。6kg 台は OK なのかな？

RW 駅から樹林を抜けて西穂山荘へ。この地点のパノラマで感激が始まる。ここで早めの昼食を摂り、独標を目指す。丸山に向かう途中、山荘を振り返ると後方に焼岳。右手には会話で度々耳にする笠ヶ岳（一瞬ピークが表れる）。この雄大な景観にまたまた感激。更に独標を見上げるとその後方には西穂高岳?? その後方にもいくつかのピーク。何とも言えない！！



丸山を過ぎて間もなくすると若干の頭痛とめまいを感じる。これが高山病の兆し？ 小間隔で休憩を取って頂いたおかげで間もなく収まる。続くガレ場・ザレ場では足場に注意を払い進み、最後は独標への岩場登り。高所恐怖症の私だが、3 点支持を心掛けながら進むと不思議と恐怖心は湧かず。間違いなく Y 懸トレの効果だと感じる。

登りは気持ちが高ぶり、特に感じなかった足の違和感、下りはザレ場あたりから膝・太腿が弱音を吐き始めた。膝への負担軽減を心掛けながら RW 西穂高駅まで。いつもながら下りはキツイ！

何といっても初めての 2000m 超え。初めてのアルプス。壮大な景観。記憶から消える事の無い山行になりました。

綿密な計画立案と安全に遂行して頂いた CL・SL さんに、感謝いたします。また、遠距離を運転して頂いた車出し運転者さん、楽しい時間を共有したご参加の皆さん、本当にありがとうございます。

木田 修司

家族や友人と山行にと、これまでに何度となく訪れた奥飛騨も、2010 年の双六から笠ヶ岳への縦走を最後に、しばらくぶりの訪問となった。

昨年末の入会后、初めての宿泊山行ということで迷惑をかけないようにと、事前の秋山登山に向けたトレーニングにも積極的に参加して万全を期して参加したつもりだったが、独標の山頂直下の岩場を非常にゆっくりとしたペースで下降し、緩い下りになった途端に両太腿がつり激しい痛みで襲われた。

Y 班長の服用のアドバイスと、N 班長が即座に雨蓋ポケットから「漢方薬(68 番)」を出していただき、服薬後 1 分も経たないうちにけいれんが嘘のように治まって事なきを得た。自分も同じ薬を持参していたのだが、下山後に確認するとリュックにはなく、車中にあるバックに入っていた。

両班長への感謝の気持ちと、今回の教訓を次に活かしたいと思っている。

木元 隆司

山行直前に台風が接近し実施が危ぶまれたが、台風の進路が予報から徐々に離れていき、無事実施することができ、幸運だった。CL/SLの方は、コロナ禍のため山小屋泊を避けビジネスホテルに宿泊するコースを検討され、その上、台風で難しい判断を迫られ、本当に大変だったことと思います。お世話になりました。

1日目は移動のみで、2日目に西穂高岳独標へ。ロープウェイで一気に標高2156mの登山口へ行き、そこから西穂山荘を経て独標まで登る。独標手前に少し岩場があり、慎重に登って独標に到着。ガスが出てきて、すぐ目の前には西穂高岳山頂、さらにその向こうのジャンダルム、奥穂高岳の雄大な景色を見ることができなかつたのは残念でした。せっかくここまで来たのなら、できれば、ジャンダルムは無理としても西穂高岳の山頂までは行きたかったけど、でも、コロナ禍の中、ここまで来ることができたのだから感謝です。3日目は、あいにくの雨で、かつガスもかかっていたため、登山は中止となった。登山ができなかつたのは残念だったが、温泉でゆっくり疲れをとることができたのは良かった。

天気によって登山の印象、満足度が大きく変わってくるが、でも天気はどうすることもできず、祈ることと受け入れることしかできないと改めて思った。

CL/SLをはじめ、運転していただいた方、そして同行のみなさん、お世話になりました。ありがとうございました。

和田 千恵

平尾さんに私でも登れるかと、お聞きしたのが始まりでした。

トレーニングしたら行けますよと言われたのを真に受けて申込み、

大丈夫かと内心ひやひやしながらYケンや比良山、夏の低山に参加して本番を迎えました。

当日は、台風も去って青空も見える登山日和！（晴れ男若林さんと晴れ女私がいたら晴れると思っていた通りでした。）

皆さんに支えられながら、下を見ないようにやっとかさ往復できました。山頂での集合写真は皆いい顔で笑ってます！

私の前を進む西川さん、後ろの木田さんには崖の上り下りを教えて頂き助かりましたし、

CL、SLはじめ皆さんに支えられての登頂で私にとってはやったー！と嬉しく、行って良かったと思っております。

本当にありがとうございました。

広瀬 秀憲

誰が晴れ男か？晴れ女か？

台風接近の中、家族に笑われながら23日午後京都を出発。次第に台風は東にそれ、24日朝には登山可能となった。西穂山荘からは岩場、ザレ場、ガレ場の連続。最後の急な岩場を登り2702mの独標にたどり着く。途中見えていた目の前のピラミッドピークもかすんでいた。緊張の連続だったが、頂上に立つとやはり達成感が沸きあがる。下りのザレ場はより慎重に、一步一步足を踏ん張るため相当つ

かれた。今にも降ってきそうな雲模様が笠ヶ岳の上空にかかっており急いで下山。麓は雨が降ったようだが、幸い山行中は雨に合わなかった。三日目は、大雨。美ヶ原に変更したが歩ける状態でなく早々に退散。温泉につかり帰途に就いた。今回の山行は、二日ともホテル宿泊。「go to travel」を利用して、安くなった分夜の宴会で散財。わいわい飲み、食べ大満足。二人の「女性陣」が大変な酒豪であることに驚かされた。

森林限界超えの登山を終え、体力に対する自信と登山に対する新たな意欲が出てきました。藤村様、平尾様お世話ありがとうございました。またご同行願います。

吉澤 珠美

去年の夏家族旅行で上高地に行き大正池から焼岳を見上げました。あの山に登る人がいるんだと思いました。次の日新穂高ロープウェイで西穂高口駅まで上がり屋上展望台から雲に隠れた山を見て直ぐに下りました。

今回独標まで行けたのは、考えられない程の進歩です。行く前に何度も動画を見たという N さんの話を思い出して帰宅してからドローンの映像を見て改めてよくもまああんなに切り立った断崖に登ったものだと自分に感心しました。綿密に計画を立てて下さった CL や役員の方々、長距離を運転された方々、同行の皆さまに感謝申し上げます。

北條 都

台風が来そうな中での山行だったが、天気予報がいい方に外れカップを着ることもなく西穂高の独標まで登ることができた。

独標の岩場は、かなりきつくて苦戦したが、笠ヶ岳の雄姿を垣間見ることもできて、やっぱり信州の山はいいなと改めて思った。

2日目は雨で当初の八ヶ岳北横岳はおろか、代替案の美ヶ原までは行ったもののすごい雨で歩くことも出来ず、残念ながら温泉に入り予定より少し早めに帰路についた。

悪天候が予想される中での今回の山行、何とか一山には登ることができ、無事に終わられて本当によかったと思う。

天候のことなどで苦労された CL 藤村さんと SL 平尾さんありがとうございました。

平尾 繁和

夏山集中登山を新型コロナウイルス対応で延期しての秋山登山。宿泊をビジネスホテルとしロープウェイを利用しての日帰り山行等という様々検討し対応を取っての計画でしたが、予想を超える参加希望者がありました。延期に伴いトレーニングも8月の猛暑のなかの比良山トレ、7月に雨で中止の岩トレはY懸初心者を中心に9月に再計画、佐坂顧問の援助をえて三点確保の基礎とガレ場歩きを実施してきました。事前予想のとおり台風が発生、ホテルの団体扱いの関係から善後策にいろいろ頭を悩ませましたが、幸い進路が大きく東に反れたため西穂独標を全員で踏みしめることができました。出足の遅れをカバーする見事なペース配分とみなさんの協力で、最終から1便早いロープウェイで下山できました。3日目は雨になったものの無事帰着できなによりでした。参加のみなさんのご協力のおかげです。また、担当の藤村さんには大変ご苦労をかけました。ありがとうございました。個人的には、2000年7月の奥穂高岳縦走以来のこのコース、いろいろ思い出され大変懐かしかったです。



針葉樹林帯を行く



西穂山荘直下



西穂山荘前



丸山への岩場



丸山



独標へ向かう



独標到着



下山路



ゴゼンタチバナの実



シラタマノキの実



オオカメノキの実